

令和5年度 現代の国語 シラバス

科目名	単位数	履修	スクーリング回数	レポート回数
現代の国語	前期2	必履	前期6	前期6

1 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養う。

2 現代の国語の目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 現代の国語の概要

- ①漢字の字音・字訓を身につける。
- ②言葉遣いと文章表現、特に、語彙、用法、表記に注意する。
- ③音読、朗読ができるようにする。
- ④互いを尊重するとともに、自分の考えや体験を表現できるようにする。
- ⑤文章を読み、内容を理解できるようになる。
- ⑥登場人物の特徴や心情、情景を読み取り、テーマにせまる。
- ⑦文章内容をよく読み・聞き、理解し、要約する力を身につける。

4 評価の観点

単元目標が達成できたか「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的態度」の観点から、スクーリング・レポート・考査をとおして評価する。

5 使用教材

『新編現代の国語』（東京書籍）

6 到達目標

実社会や実生活で使える言葉の力を磨く

7 履修上の注意

スクーリングに出席し、レポートをすべて提出することで、定期考査を受ける資格が得られる。定期考査を受けることで履修が認められる。2～5の評価が得られると修得となる。

令和5年度 言語文化 シラバス

科目名	単位数	履修	スクーリング回数	レポート回数
言語文化	後期2	必履	後期6	後期6

1 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養う。

2 言語文化の目標

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 言語文化の概要

①古典（優れた古文・漢文）＋優れた現代文（小説・詩歌・随筆など）を読み味わい、自分を見つめ直し、生きるヒントを得る。

②古典芸能（能・狂言・歌舞伎など）に親しみ、それぞれの時代の人々がどのようなことを考えてきたかを理解する。

③音声言語としての日本語、漢字・平仮名・片仮名、文体（文章の様式）などに親しみ、一人一人が言語文化の担い手としての意識をもたせる。

4 評価の観点

単元目標が達成できたか「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的態度」の観点から、スクーリング・レポート・考査をとおして評価する。

5 使用教材

『新編現代の言語文化』（東京書籍）

6 到達目標

たくさんの表現に触れて、「言葉」の世界を広げる。

7 履修上の注意

スクーリングに出席し、レポートをすべて提出することで、定期考査を受ける資格が得られる。定期考査を受けることで履修が認められる。2～5の評価が得られると修得となる。

令和5年度 文学国語 シラバス

科目名	単位数	履修	スクーリング回数	レポート回数
文学国語	前期2・後期2	選択	前期6・後期6	前期6・後期6

1 国語科の目標

読む、書く、話す・聞くということの指導を通じて基礎学力の向上を図る。

2 「文学国語」の目標

- ①文章を適切に理解し、言語感覚を磨き、文学を通して思考力や想像力を豊かにする態度を育てる。
- ②作品を通して読解、鑑賞、読書の方法を習得し、物の見方・考え方を深め、表現力を養う。

3 文学国語の概要

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「言語事項」の学習が行えるように、近代以降の文章の中から偏りなく作品を精選して鑑賞し、ものの見方や考え方を深めながら、言語能力を育成する学習内容。

4 到達目標

- ①現代文の読解に必要な語彙・漢字・文法などの基礎知識を身につける。
- ②作品の鑑賞を通してものの見方、考え方を深め、自分の感想や考えをもつことができる。
- ③生徒が自ら課題に取り組み、言語感覚を磨き、自分の思いや考えを伝えることができる。

5 評価の観点

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の観点から、スクーリング、レポート、定期考査を通して基礎学力が身についたかを評価する。

6 使用教材

高等学校標準文学国語（第一学習社） / 文学国語学習課題集（第一学習社）

7 履修上の注意

前期2単位、後期2単位をそれぞれ履修すること。4単位そろえて「文学国語」の履修となる。スクーリングに出席し、レポートをすべて提出することで定期考査を受ける資格が得られ、考査を受けることで履修が認められる。評価2～5で単位修得となる。

令和5年度 国語表現 シラバス

科目名	単位数	履修	スクーリング回数	レポート回数
国語表現	前期2・後期2	選択	前期6・後期6	前期6・後期6

1 国語科の目標

読む、書く、話す・聞くということの指導を通じて基礎学力の向上を図る。

2 「国語表現」の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力をや深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力や、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 「国語表現」の概要

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「言語事項」を通して、伝えあう力(表現力)をより確かなものとし、社会生活に活かすことのできる言語能力を育成する学習内容。

4 到達目標

- ①言葉の特徴や適切な使い方を身につけ、場や目的に応じて自分の思いや考えを深め、伝えられる力を身につける。
- ②相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめて表現することができる。

5 評価の観点

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の観点から、スクーリング、レポート、定期考査を通して基礎学力が身についたかを評価する。

6 使用教材

教育出版 国語表現 改訂版

7 履修上の注意

基本は、3年次に履修する。スクーリングに出席し、レポートをすべて提出することで定期考査を受ける資格が得られ、考査を受けることで履修が認められる。評価2～5で単位修得となる。